



あっぱいだより



新潟市民病院母乳育児推進委員会 令和6年5月

着任のご挨拶とBFNICUについて

新潟市民病院 総合周産期母子医療センター
新生児科 佐藤尚

今年度から新潟市民病院総合周産期母子医療センター長に就任させていただきました。全てにおいてまだ力不足であることは自覚しております。皆様のお力を頂きながら努めさせていただきます。

日本の新生児医療は、死亡率をアウトカムとした場合、現在のところ世界で最高水準を維持しています。22-23週のような非常に未熟な赤ちゃんについては今後改善すべき余地はあるものの、全体としての死亡率を更に下げることが、飽和点に達してきているのかもしれませんが。しかし、元気にNICUを退院した赤ちゃんでも、知的な問題、自閉症スペクトラムや注意欠陥多動といった行動の問題などで困ることが少なくないことが明らかとなってきています。それらを防ぐためにどうしたらよいのか。これが急性期ケアにおいても大きな関心事になってきています。Infant centered care、family centered care、赤ちゃんが受けるストレスや痛みなどをケアすることが答えの一つであることは確かだと思われまます。母乳育児を推進し、母や家族と赤ちゃんの関係を育むことは、それらを実践するための重要な手段の一つであると考えまます。当施設は2023年にBFNICU (baby friendly NICU) に認定されました。NICUにおける“baby friendly”の意味とは、“赤ちゃんの心を守る”ための急性期ケアを考え、実践していくことだと考えています。皆様と一緒に考え、行動していきたいと思ひます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



BFNICU 認定をうけて

9階西病棟 木屋 美穂子

2023年BFNICUに認定されました。2013年、BFH施設と認定されてから、産科だけでなく新生児科でも「母乳育児成功の為の10か条」に沿って、母親が退院後も母乳育児が続くためにはどうしたら良いかを考えて支援を行っています。出生直後から母子分離を余儀なくされるNICUという環境下では、母親だけでなくスタッフにとっても限られた時間の中で行わなければならない事、成果がわかりにくいことなどから、大変だと感じてしまうことがあります。母乳育児をすすめていくためには、母親が自発的に母乳で育児がしたいと思って重られるような関わりが必要です。母親とその家族が楽しんで育児ができるように、母親と母親を支える夫や家族を考えて、赤ちゃんにも母親やその家族にもやさしいケアを心がけています。答えは1つではないです。今回の認定を私たちの自信につなげ、より良い親子関係、より良い絆が築けるように、これからの支援を続けていきたいと思ひます。